

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和2年8月1日※1
(前回公表年月日:令和元年8月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
大阪アニメ・声優&eスポーツ専門学校	平成23年12月28日	須賀 寅充	〒530-0042 大阪市北区天満橋1-5-9 (電話) 06-6242-5220																						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																						
学校法人コミュニケーションアート	昭和63年4月1日	理事長 近藤 雅臣	〒550-0013 大阪市西区新町1-8-22 (電話) 06-6536-7161																						
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																				
文化・教養	専門課程	声優科(昼間Ⅱ部)		平成26年文部科学省告示第6号																					
学科の目的	本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、まんが、アニメに関する専門的知識及び技能を修得させ、もってその分野で貢献できる専門家の養成を図ることを目的とする。																								
認定年月日	平成 26年 1月 28日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
2年	昼間	1800	0	2280	0時間	0時間	0時間																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
80人		59人	0人	2人	35人	37人																			
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日 ■3学期:			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、出席状況にて評価を実施																				
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月24日～8月22日 ■冬季:12月22日～1月7日 ■学年末:3月11日～3月31日			卒業・進級条件	出席率と試験点数により、進級、卒業に必要な単位を取得している。																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、保護者面談、三者面談。またプロのカウンセラーによる相談窓口を設置。			課外活動	■課外活動の種類 同好会・学園祭実行委員会・学生会・体育祭 ■サークル活動: 有																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 声優・芸能プロダクション、アニメ業界など			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 担任による個別面談、キャリアセンタースタッフによる進路カウンセリングや履歴書指導。				<table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>JESCコミュニケーションスキルアップ検定</td><td>③</td><td>40人</td><td>40人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JESCコミュニケーションスキルアップ検定	③	40人	40人										
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
JESCコミュニケーションスキルアップ検定	③	40人	40人																						
		■卒業生数	36人																						
		■就職希望者数	36人																						
		■就職者数	36人																						
		■就職率	100%																						
		■卒業者に占める就職者の割合	100%																						
		■その他 ・進学者数:	0人																						
		(令和 元 年度卒業者に関する 令和2年5月1日 時点の情報)																							
中途退学の現状	■中途退学者 3名 平成31年4月1日時点において、在学者52名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者 49名(令和2年年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更			■中退率 5.5%																					
		■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、学費相談(分割納入や延期納入)、保護者面談、三者面談、補修、課題提出																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								

第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価：有・無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科の ホームページ URL	<p>https://www.oas.ac.jp/course/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

エンターテインメント業界において、人に感動や喜びを与えられることの出来るクリエイターとして即戦力を身に着けるよう、職業人教育を実施していくために、業界が必要とする人材を業界と共に育成する、産学協同教育システムという考えのもと、企業と連携した授業を実践している。また、講師会などにおいて、業界、団体の方の意見や動向、要望などを取り入れ、授業内容の見直しや授業方法の改善、工夫等を行っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は理事会のもとに設置されています。よって、学校が編成した教育課程案は、教育課程編成委員会に付議し、必要な場合は、理事会、評議会において決議されます。また、業界からの求められる人材、技術等についても各企業から情報をいただきそれを委員会にて議論を重ね、より実践的に職業教育を実施できるように行なっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
内海賢太郎	一般社団法人日本声優事業社協議会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
大野 拓家	株式会社 ラグタイム	平成31年4月1日～令和3年3月31日	③
宮下 耕治	株式会社 セイ	平成31年4月1日～令和3年3月31日	③
宮前 健夫	株式会社ゼネラルアサヒ	平成31年4月1日～令和3年3月31日	③
岩元 トータ	株式会社 キャラ	平成31年4月1日～令和3年3月31日	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和元年10月3日 17:30～20:30

第2回 令和2年2月8日 14:40～16:10

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

就職・デビュー 基礎力を固めることが大切。個々のレベルの差に開きがあるので補習を実施。業界との接点をさらに増やし、職業理解度と高める。業界では、技術・知識も必要だが、コミュニケーションスキルやマネジメント、プレゼンカも求められるためそういった部分も強化する必要がある。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

3つの教育理念(実学教育・人間教育・国際教育)を掲げ、業界が求める人材を業界と共に育成する「産学協同教育」という考え方のもと、業界の方から直接、学生が目指す職業に必要な知識、技術を指導している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業プロジェクト(企業課題)や業界研修などを通じて、目指す職業に必要な知識、技術を習得させる。

また業界の方に直接指導並びに、作品審査や評価を頂き、教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アテレコ・アフレコ	外面吹替音響制作／アニメーション音響制作に必要なアフレコ技術の基礎を修得する。実践的な技術の向上を図るためマイクワークのみならず、スタジオマナーやアフレコ用語、また作品・キャラクター分析等、収録に入るまでの準備段階から育成する。	株式会社キャラ

演技演習	実践的な技術の向上を図るため舞台用語・制作方法・リハーサルの仕方・集客方法等、準備段階から指導し、舞台に立ち、ミュージカルを発表するまで育成する。	有限会社プランニングRYU
声優演習	外画吹替音響制作／アニメーション音響制作に必要なアフレコ技術を修得する。 実践的な技術の向上を図るためマイクワークのみならず、スタジオマナーやアフレコ用語、また作品・キャラクター分析等、収録に入るまでの準備段階から育成する。	ネクシード(株)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の求める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。平成30年度においては、中途退学者防止に向けた「学生ひとり一人」に対する対応案の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを実施することを年間の教育活動の中心に据え、ファカルティ・ディベロップメント活動を推進する専任教員に対し、以下の要素を年間を通した授業内容に反映されるよう研修を行う。

① キャリア教育の視点②ひとり一人を見ていく視点

さらには専任教員と兼任教員で組織する講師会において、方針を共有し授業内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

滋慶教育科学研究所(JESC)主催の各教育部会(年2回)や教育学会発表(年1回)、業界団体取材の研修(年1回)などを実施した。業界動向把握のため、業界の方を招いての講演を実施している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

滋慶教育科学研究所(JESC)主催の各教育部会(年2回)や教育学会発表(年1回)、各セクション、対象者に応じた研修などを実施した(年1回)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

滋慶教育科学研究所(JESC)主催の各教育部会(年2回)や教育学会発表(年1回)、業界団体取材の研修(年1回)などを実施した。業界動向把握のため、業界の方を招いての講演を実施している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

滋慶教育科学研究所(JESC)主催の各教育部会(年2回)や教育学会発表(年1回)、各セクション、対象者に応じた研修などを実施している(年1回)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者とともに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通し、学校運営の改善に活かすことを方針とする

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、目的、育成人材像
(2) 学校運営	学校運営

(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会において討議され、各委員の方々から頂いた意見を学校運営において反映させていっている。そして自己点検。自己評価を繰り返しより良い運営が行えるようにしている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
池田 悠斗	フリー漫画家	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	卒業生
松幸 秀美	保護者様	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	保護者
久徳 健三	大阪市北区堀川連合振興町会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	地域代表
易 寿也	大阪府立富田林高校 前学校長	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	学校
岩元 トータ	株式会社 キャラ	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	業界
大野 拓家	株式会社 ラグタイム	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	業界
宮下 耕治	株式会社 セイ	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	業界
西脇 洋平	株式会社 神戸デザインクリエイティブ	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	業界
宮前 健夫	株式会社ゼネラルアサヒ	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	業界

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://www.oas.ac.jp/course/>

公表時期:令和2年8月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

事業計画の実行方針において、提起された目標を具体化するため、企業などから意見聴取を行い、業界の動きを踏まえた実行計画を作成している。具体的な事例として、講師会等にて企業課題や授業科目、内容について検討を重ね、意見を反映させてから、様々な企業との連携を図っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、建学の理念、学校安全関連、保健対
(2)各学科等の教育	受入方針、定員、在校生数、卒業生数、カリキュラム(教科課程表)、学年
(3)教職員	教職員数、学校組織図、教員の実績
(4)キャリア教育・実践的職業教育	産学協同教育、コミュニケーションスキルアップ検定
(5)様々な教育活動・教育環境	施設紹介、海外実学研修、海外専門留学
(6)学生の生活支援	中途退学防止への取り組み/中途退学状況・進路変更委員会・
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧、奨学金・教育ローン案内等
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	留学生支援、留学生の受け入れ状況、外国の学校などとの交流状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:https://www.oas.ac.jp/school/public_info/about.html

授業科目等の概要

(専門課程声優科昼間Ⅰ部・Ⅱ部) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			英会話	国際性を高める学習の一環として、日常英会話や専門留学用の英語力、表現力を身につけます。	1通	60	4	○			○			○	
○			コンピュータ	コンピュータを使用する上で必要となるインターネットの基礎になる技術・知識を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
○			コンピュータ	コンピュータを使用する上で必要となるインターネットの基礎になる技術・知識を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
○			ビジネスマナー	人間関係作りのツールとなるコミュニケーション能力の修得及び向上を目標に、自己表現・社会的スキル、サービスマインド等を体系的に学び、社会人として柔軟に活用できることを学びます。	1通	60	4	○			○			○	
○			コミュニケーション技法	自分の意思を正確に伝え、相互理解に至るコミュニケーションスキルを身につけます。	2通	60	4	○			○			○	
○			滑舌・アクセント	正しい日本語・発声方法・アクセントを学び、自分の声・言葉をしっかり出せるように訓練します。	1通	60	4	○			○			○	
○			言語表現・朗読	自分の声・言葉をしっかり出せるように訓練し、表現者としての発声の基礎・表現の基礎を学びます。文学を通して日本語の理解を深めます。	1通	60	4	○			○			○	
○			ヴォイス&ボディトレーニング	表現者としての基礎発声ができる様、体感を鍛え、腹式呼吸がしっかりできる身体作りを行います。	1通 2通	120	8	○			○			○	
○			声優基礎	作品作りを通し演出法や表現、必要な知識・スキルを身につけ、表現力・身体能力・歌唱能力を伸ばします。	1通	120	8	○			○			○	
○			声優演習	実践的な技術の向上を図るためマイクワークのみならず、スタジオマナーやアフレコ用語、また作品・キャラクター分析等、収録に入るまでの準備段階から育成する。	2通	120	8	○			○			○	○
○			アテレコ・アフレコ	実践的な技術の向上を図るためマイクワークのみならず、スタジオマナーやアフレコ用語、また作品・キャラクター分析等、収録に入るまでの準備段階から育成する。	1通 2通	120	8	○			○			○	○

○		ヴォイスコントロール	しっかり声を出し、動きながら発声できる身体作りをしていきます。音楽理論やイヤートレーニング、リズムトレーニングを学び必要な知識・技術を学びます。	1通	60	4		○	○		○	
○		演技演習	実践的な技術の向上を図るため舞台用語・制作方法・リハーサルの仕方・集客方法等、準備段階から指導し、舞台に立ち、ミュージカルを発表するまでの育成する。	1通 2通	120	8		○	○		○	○
○		オーディション対策	オーディションを受けるにあたっての面接、マナー、業界知識、特技、自己PRなどのチェックを行います。	2通	60	4		○	○		○	
	○	ナレーション	ナレーション原稿を読み理解し、表現する技術を身に付けます。	1通 2通	120	8		○	○		○	
	○	ラジオパーソナリティ	ラジオパーソナリティとしての話し方、言葉の伝え方の基本からテクニックまで総合的に学びます。録音機材の使い方や収録方法を学びます。	1通 2通	120	8		○	○		○	
	○	ラジオドラマ	サウンドドラマ作品を作り上げることによって、言葉の大切さや意味・協調性などを学びます。	1通 2通	120	8		○	○		○	
	○	MC・レポート・実況	MC・レポート・実況に必ず必要なフリートークのスキルアップを図る。自分の言葉で自分らしく話せるように個性を重視した指導。	1通 2通	120	8		○	○		○	
	○	演技演習	舞台制作を通して演出法や表現・俳優としてのスキルを身につけ、作品作りの難しさや楽しさを学びます。	2通	120	8		○	○		○	
	○	アテレコ・アフレコ演習	作品制作を通して演出法や表現・声優としてのスキルを身につけ、作品作りの難しさや楽しさを学びます。	2通	120	8		○	○		○	
	○	舞台表現演習	舞台制作を通して演出法や表現・ダンスのスキルを身につけ、作品作りの難しさや楽しさを学びます。	2通	120	8		○	○		○	
○		業界研修	タレントとして必要な、服装・髪型・メイク・色使いなどビジュアル作りを学び、実際の現場実習を通して芸歴を付けていきます。	2通	120	8		○	○		○	
○		進級制作	1年間の集大成として学んだ力を発揮し、作品を作り上げ発表します。	1通	120	8		○	○		○	
○		卒業制作	2年間の集大成として学んだ力を発揮し、作品を作り上げ発表します。	2通	120	8		○	○		○	
合計				23科目	2,280単位時間(152単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
2年間で114単位(1,800時間)以上を修得した者で、卒業認定された者		1学年の学期区分	前期・後期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。